

<報道発表資料>

カテゴリー：お知らせ

令和5年4月20日

**サクラの外来害虫クビアカの被害拡大続く  
「クビアカツヤカミキリ発見大調査 2022」結果発表**

環境科学国際センターでは、サクラを枯らす外来害虫“クビアカツヤカミキリ”からサクラを守るため、「クビアカツヤカミキリ発見大調査」を平成30年度から実施しています。

この調査は、県内の公園や河川敷、学校などに植えられたサクラを中心に、県民の皆様からその被害や成虫の発生状況を報告していただき、実態を把握するものです。

このたび、令和4年度の調査結果がまとまり、被害の拡大が続いていることが明らかになりました。

被害拡大防止のため、県は引き続き被害実態を把握し、早期防除の取組を推進していきます。県民の皆様には、情報の提供についてより一層の御協力を改めてお願いします。

●「クビアカツヤカミキリ発見大調査 2022」の結果概要

1 調査方法

クビアカツヤカミキリの成虫が発生し、被害も多くなる6月から、県内の公園や河川敷、学校などに植えられたサクラを対象に、クビアカツヤカミキリの成虫(図1)の発生状況やフラス(木くずとフンが混ざったもの)(図2)の排出状況を、県民の皆様や市町村職員に調査していただき、結果を環境科学国際センターに御報告いただきました。なお、被害がないことについても御報告いただきました。



図1 クビアカツヤカミキリ(オス)



図2 フラス  
(褐色のカリントウ状で比較的硬い)

## 2 被害市町村数と被害箇所数

県内 47 市町村の 1034 か所から報告があり、そのうち、22 市町村の 598 か所から被害発生(成虫のみの確認を含む)の報告がありました(表1)。

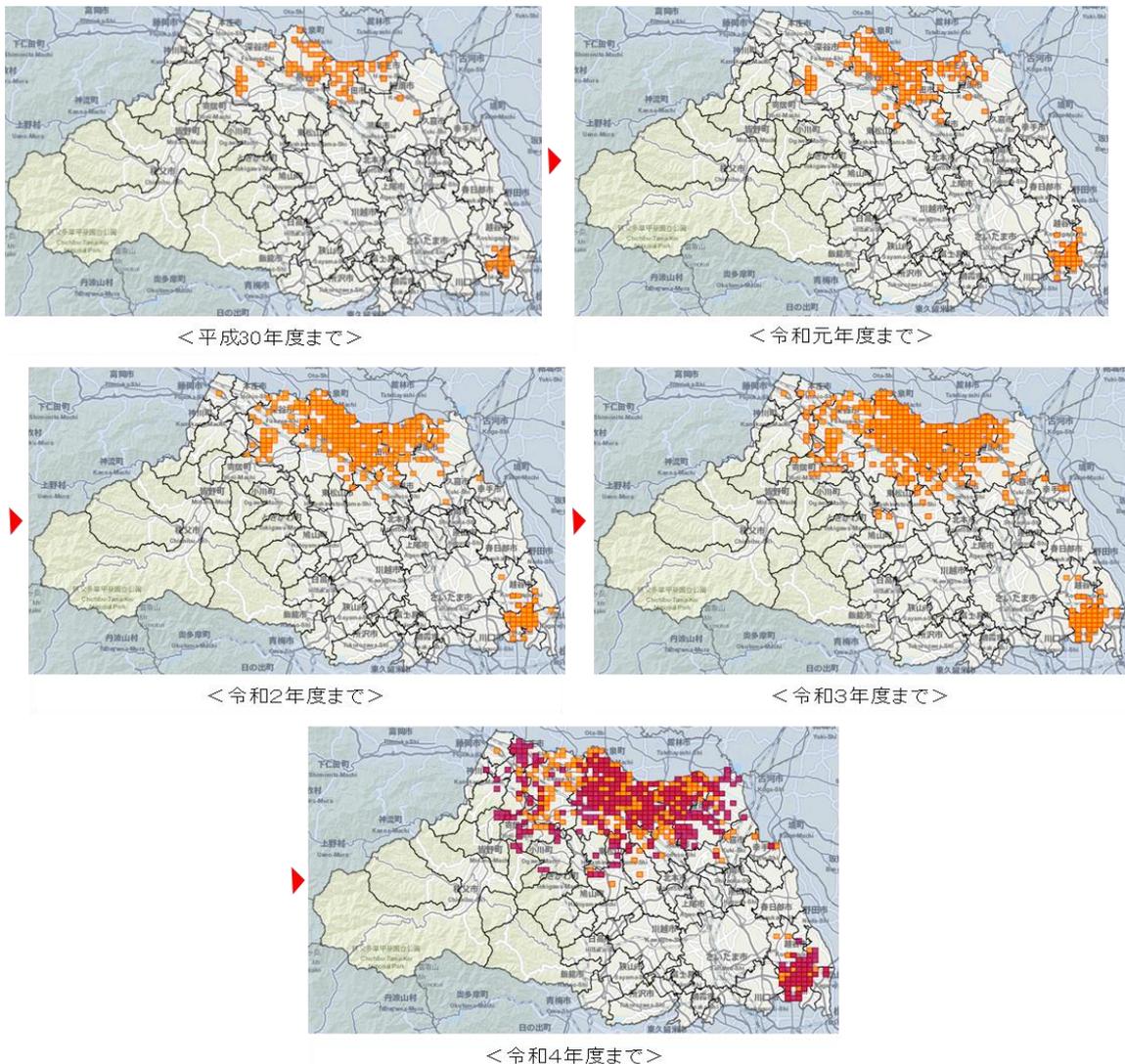
令和3年度と比較して、令和4年度の被害発生市町村数は 18 市町から 22 市町村に、被害発生箇所数は 444 か所から 598 か所に増加しました(表1)。令和4年度に新たに被害が発生した自治体は、長瀬町、滑川町、神川町、小川町及び東秩父村の4町1村でした。令和4年度の被害箇所数は令和3年度の約 1.3 倍に増加し、被害地域の拡大も調査を開始した平成 30 年度から依然として続いています(表1及び図3)。

今後は、被害発生地域での防除を継続するとともに、被害を未然に防止するためには、その周辺の被害未発生地域に飛翔して拡散する個体の防除対策が必要と考えられます。

表1 被害発生市町村と被害箇所数(平成30年度～令和4年度)

市町村	平成30年度の被害箇所数	令和元年度の被害箇所数	令和2年度の被害箇所数	令和3年度の被害箇所数	令和4年度の被害箇所数
草加市	23	44	48	69	83
八潮市	3	6	8	14	16
越谷市	4	4	5	7	15
羽生市	10	16	66	69	47
熊谷市	45	69	106	130	167
行田市	30	46	99	68	53
深谷市	11	7	57	10	10
加須市	2	5	18	12	78
吉川市	—	3	2	2	14
三郷市	—	1	2	7	6
鴻巣市	—	3	14	15	4
寄居町	—	2	2	10	22
上里町	—	—	1	0	0
幸手市	—	—	1*	3	1
久喜市	—	—	1	4	2
本庄市	—	—	1	5	35
東松山市	—	—	—	9	11
吉見町	—	—	—	4	0
美里町	—	—	—	6	4
長瀬町	—	—	—	—	19
滑川町	—	—	—	—	1*
神川町	—	—	—	—	1*
小川町	—	—	—	—	4
東秩父村	—	—	—	—	5
被害発生市町村数計	8	12	16	18	22
被害発生箇所数計	128	206	431	444	598

\*, 成虫のみの確認



## ● 今後のクビアカツヤカミキリ対策

- 1) 地域連携による対策を進めるため、県、被害発生市町村及びその周辺市町で構成される連絡会議を開催し、情報共有や防除体制の強化を図ります。
- 2) 効果的な防除対策を進めるため、県民参加による「クビアカツヤカミキリ発見大調査」を継続し、市町村とともに、県内全域における被害状況の把握に努めます。
- 3) 対策技術の普及啓発を図るため、被害防止に関する研修会や出前講座を積極的に開催します。

4) 防除や被害木の伐採・処分を実施する市町村に対し、財政支援を行います。

・補助金制度に関する問い合わせ

環境部みどり自然課 野生生物担当 TEL: 048-830-3143

## <参考>

### ● 県内被害の変遷

平成 25 年度	・埼玉県南部の草加市と八潮市で、県内で初めてクビアカツヤカミキリの被害報告(3か所)。
平成 26 年度	・八潮市で新たな被害報告(3か所)。
平成 27～28 年度	・被害報告なし。
平成 29 年度	・県北部の羽生市、熊谷市、行田市、深谷市及び加須市、県南部の越谷市で、新たに被害報告(18か所)。 ・草加市と八潮市を合わせて県内8市 24か所で被害確認。
平成 30 年度	・「クビアカツヤカミキリ発見大調査 2018」を実施。 ・平成 29 年度と同様の8市から 128か所の被害報告。
令和元年度	・「クビアカツヤカミキリ発見大調査 2019」を実施。 ・平成 30 年度に被害が確認された8市に、新たに3市1町を加え、計 12市町の 206か所から被害報告。
令和2年度	・「クビアカツヤカミキリ発見大調査 2020」を実施。 ・令和元年度に被害が確認された 12市町に、新たに3市1町を加え、計 16市町の 431か所から被害報告。
令和3年度	・「クビアカツヤカミキリ発見大調査 2021」を実施。 ・令和2年度に被害が確認された 15市町(被害報告がなかった1町を除く)に、新たに1市2町を加え、計 18市町の 444か所から被害報告。
令和4年度	・「クビアカツヤカミキリ発見大調査 2022」を実施。 ・令和3年度に被害が確認された 17市町(被害報告がなかった1町を除く)に、新たに4町1村を加え、計 22市町村の 598か所から被害報告。 ・令和3年度に比べ、被害箇所数は約 1.3倍に増加、被害地域の拡大を確認。

### ● クビアカツヤカミキリ調査地点マップ

下記 URL の「クビアカツヤカミキリ情報」サイトにある「クビアカツヤカミキリ調査地点マップ」で、図3のような県内の被害発生地域や、被害発生及び被害未発生地点に関する情報が確認できます。

### ● クビアカツヤカミキリについて

- \* 平成 30 年1月に、特定外来生物に指定された。
- \* 自然分布は、中国、モンゴル、朝鮮半島、ベトナムなど。

- \* 幼虫は、サクラなどのバラ科樹木の生木を食べ、木の内部で2～3年かけて成長し、蛹になる。
- \* 幼虫の活動期は春から秋で、この間にフラスを排出する。
- \* 蛹は6月中旬から8月上旬に成虫となり、樹体の成虫脱出孔から樹体外に出る。
- \* メスの成虫は木の樹皮の割れ目に産卵し、卵を1000個近く産むこともある。
- \* 成虫の寿命は、野外では1か月程度で、成虫で越冬はしない。

環境科学国際センターでは、クビアカツヤカミキリに関する基礎的な情報を、下記URLの「クビアカツヤカミキリ情報」サイトから発信しています。このサイトから、クビアカツヤカミキリの「資料用画像」や「被害防止の手引」も入手できます。

URL: <https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/center/kubiaka.html>



## ● 写真



図4 サクラの根元に堆積したフラス

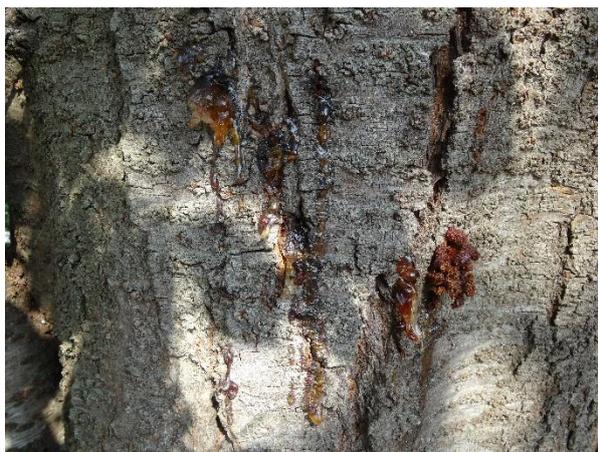


図5 サクラの樹体から排出されるフラスと樹液